

中国語教育学会会報

第 32号(通巻 57号)2011年 6月 30日発行

〒441-8522
愛知県豊橋市町畑町 1-1 愛知大学
荒川清秀研究室内
中国語教育学会
HP <http://www.jacle.org/>
Email ch_teaching@yahoo.co.jp
郵便振替口座 00110-1-191152

=====

目次

- (1) 第9回全国大会開催報告
- (2) 2011年度第1回理事会報告
- (3) 事務局からのお知らせ

=====

(1) 第9回全国大会開催報告

第9回全国大会は2011年5月28日と29日の2日間にわたって愛知大学豊橋校舎で開催され、あいにくの天気にもかかわらず計123名の方に参加していただきました。大会初日の5月28日はシンポジウム、会員総会が行われました。シンポジウムはテーマを「中国語発音教育の問題点を探る」とし、コーディネーターに平井和之氏(日本大学)、報告者に朱春躍氏(神戸大学)、呉志剛氏(早稲田大学)、伊藤英人氏(東京外国語大学)、北村よう氏(東海大学)、村上公一氏(早稲田大学)、陳文芷氏(日本大学)と今回は中国語だけではなく日本語や韓国語の専門家の方にも参加いただきました。大会二日目の5月29日は6つの分科会で計11名の方に研究発表をしていただきました。

なお、シンポジウムの内容については『中国語教育』第10号に掲載予定です。シンポジウム報告者と研究発表者のタイトルについては、学会ホームページをご覧ください。

今回の全国大会は3月11日に発生した東日本大地震の影響で当初の開催予定地でありました麗澤大学での開催が不可能になり、愛知大学に場所を移して開催しました。急なお願いにもかかわらず愛知大学の格別なるご配慮ご協力を賜りましたこと、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

(文責 齋藤貴志・麗澤大学)

(2) 2011年度第1回理事会報告

日時：5月28日(土)11:30~12:50 会場：愛知大学

出席者：

会長：荒川清秀

代表理事：郭春貴、佐藤富士雄、三宅登之、平井和之、藤井達也、山崎直樹、山田眞一

理事：岩本真理、遠藤雅裕、大川完三郎、加藤晴子、清原文代、陳淑梅、西香織、丸尾誠、村上公一、守屋宏則、依藤醇

幹事：塩山正純、中西千香

出席者計 21名

欠席者：日下恒夫、胡士雲、鈴木慶夏、古川裕、楊光俊

【報告事項】

1. 会員動向について

2010年12月1日から現在まで、新入会員が11名あった。会費滞納3年の除籍予定者が5名、住所不明者は50名(『中国語教育』発送時の転居先不明数より)にも達した。住所変更のある会員は事務局までメールにて連絡されたい。

2. 研究会報告

昨年12月以降、以下の通り、研究会が九州、関東、関西で各1回開催された。

九州地区研究会 2011年1月8日(土) 於 西南学院大学

関東地区研究会 2011年1月29日(土) 於 目白大学

関西地区拡大研究会 2011年3月5日(土) 於 関西大学

それぞれの内容についてはホームページをご覧ください。

3. 『中国語教育』第9号の発行

2011年3月31日に『中国語教育』第9号を発行した。

4. 「日本における中国語教育の現状に関する調査について」

会長が代表者(幹事2名が分担者)になり、みだしの研究課題名で科研費・基盤研究Cに応募したが、不採用になった。今年度は再度計画を練り直し、来年度の科研費に応募することにした。

5. 東洋学・アジア研究連絡協議会への参加

本年より、上記の会に加入した。

【審議事項】

1. 2010年度会計報告と会計監査および2011年度予算について

中西幹事より2010年度会計の各項目における支出内容について詳細な報告があった。続いて中西幹事より、2011年度予算について提案があった。項目のうち「選挙予備費」の名称を「選挙管理費」と改め、総会として2011年度予算案を承認した。また、会長より、来年は本学会設立10周年であることから、予備費を活用して何らかの記念的な活動を行うことを検討したい旨の発言があった。

中国語教育学会 2010年度会計決算書 (2010年4月～2011年3月)

<収入>

	予 算	決 算
会費収入	2,000,000	2,039,000
会誌売上	50,000	98,000
繰越金	2,931,743	2,931,743
計	4,981,743	5,068,743

<支出>

諸会議費	400,000	48,568
事務費	300,000	248,039
郵便費	300,000	240,992
交通費	500,000	401,460
会誌第9号印刷費	300,000	300,000
第8回大会費	400,000	400,000
幹事手当	200,000	200,000
予備費	2,581,743	3,229,684
計	4,981,743	5,068,743

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2011年5月7日

2010年度会計監査 植村 麻紀子 印
2010年度会計監査 齋藤 貴志 印

2011年度予算案

<収入>		<支出>	
会費収入	2,000,000	諸会議費	400,000
会誌売上	50,000	事務費	300,000
繰越金	3,229,684	郵便費	300,000
計	5,279,684	交通費	500,000
		会誌第10号印刷費	300,000
		第9回大会費	400,000
		選挙管理費	50,000
		幹事手当	200,000
		予備費	2,829,684
		計	5,279,684

2. 名誉会員と終身会員制度について

理事会では、会長ならびに平井理事より以下の内容の提案が用意され、会議資料で示されたが、時間の関係で議論できなかった。ここに掲げて、会員の参考に供したい。

会長提案：

名誉会員は名誉会員として、限定して決めていてもいいのではないか。

現行規定では、70歳以上で在会期間が5年以上ある会員がほぼ自動的に名誉会員になっているが、学会成立後20年を経るまでは、申請に応じて議論し、それ以後は20年以上の在会規定を加えてはどうか。

平井理事提案：

・終身会員制度について

「継続して×年以上会員であり、かつ会費未納のない満65歳以上の会員は、その年度の会費の5倍の金額を一括して納入することによって終身会員となることができる。終身会員の会費は免除する。」現在の名誉会員はそのまま終身会員に移行する。」

趣旨としては、1.「功労のあった者」等とすると、何が功労かという議論になるので避けたい。同時に「名誉」という称号もやめる；2.現在の名誉会員は70歳以上なので、最低それに相当するまでの会費を払ってもらう；3.ある程度まとまった金額を払うことで会にとどまりたいという意志の確認とみなせる：ただ年齢や支払額は決定的とは考えていない。例えば満70歳以上で3年間分ということもありうる。継続期間については素案がない。10年ないしは15年か。ただ最長でも20年か。会の歴史が浅いことを考えれば毎年1年ずつ延ばしていくこともありうる。

3. 会長の再任、重任の禁止について

会長の再任、重任については、昨年総会で、再任は避けて1期までとしてはという提案があり、これが承認された。しかし、会則に反映されていなかったため、本年理事会並びに総会において、以下のように文言を改めた。会則第8条（役員を選出と任期）。

（旧）役員任期は2年間とし、再任を妨げない。ただし、会長の再任は1回にかぎる。

（新）役員任期は2年間とし、再任を妨げない。ただし、会長の任期は1回にかぎり、再任、重任は認めない。

4．中国語教育セミナーの提案

昨年度の理事会で、遠藤理事より提案があったもので、開催ならびにその方法について議論した。審議では、平井理事より、2004年における漢弁とのセミナー等、過去に学会として取組んできたことをまず踏まえた上で、新たに取組んでほしいという意見が出された。遠藤理事、岩本理事からは、議題5とも関連させながら、進めていってはどうかとの提案があり、審議の結果これを承認した。

遠藤理事を中心に立ち上げた検討グループからのお知らせを(3)の事務局からのお知らせに掲載する。

5．教育学会編『中国語教育ハンドブック』の提案

岩本理事から、学習者向けではなく、中国語を教える者として知っておくべき事項を整理した「中国語教育ハンドブック」編集の提案があり、議題4と併せて取り組むことを確認した。

6．名簿の発行について

昨今の個人情報保護の流れで、新規入会希望者のみでなく、現会員でも住所等の情報の公開を希望しない者が増えていることから、穴だらけのリストになる可能性はあるが、一応作成の方向で作業を進めることとした。詳細は、事務局からのお知らせをご覧いただきたい。

7．投稿締め切り日の変更と編集委員会規定について

昨年(2010年)6月の全国大会時、総会で編集委員会を発足することについて承認を得た。今期は会長が編集委員長を務め、理事7名(佐藤富士雄、三宅登之、平井和之、岩本真理、山崎直樹、郭春貴、山田眞一...敬称略)に編集委員を委嘱し、『中国語教育』第9号の編集を行った。

【編集委員会報告】

理事会に先立って開催された編集委員会で、査読のやりかた、査読者の範囲拡大、編集委員の任期等について議論し、理事会で、基本的に委員会提案を承認した。

主な点は以下の通り。

(1) 次々回より編集委員長を会長職から独立させる予定であるが、もう1期は会長が編集委員長を兼ねる。

(2) 『中国語学』は編集に半年かけているが、本誌は4ヶ月で十分ではない。そこで、今年度は、ひと月早い、2011年11月5日(土)を投稿締め切りとする。投稿提出先は引き続き、委員長(会長)の所属大学(愛知大学)とする。投稿規程等詳細は追ってHPで広報する。

8．新規入会者、会費未納者、非会員の権利行使(投稿・発表資格等)について

これに関し、理事会での審議の結果は以下の通りである。

(1) 「投稿、学会発表エントリー時には当該年度の会費納入を済ませた会員であること」を原則とすること。

(2) 会費未納者の投稿、エントリーについても当該年度までの会費納入を前提とし、納入が確認されてから権利行使が可能になること。

(3) 複数名によるエントリーについては、エントリー者が当該年度の会費納入を済ませた会員であること。

なお、規定の文言等については追って改訂することとした。

9. バックナンバーの廉価販売について

会長から、内山書店の了解を得たので、今回の全国大会で廉価販売をすることが諮られ、審議の結果、これを承認した。今後も全国学会時での廉価販売、内山書店での常時販売、各号印刷時の冊数を適正化することで、在庫数を圧縮する努力を継続することを確認した。

10. ホームページの中国語版について

昨年 12 月の理事会で西理事より提案があったもので、提案者の西理事を中心にホームページ運営委員会立ち上げに向けて準備を進めることを承認した。その後、西理事より上記の内容についての中国語版が寄せられ、現在本部で訳文を検討中である。

11. 新入会員の承認ならびに会費未納者への対応について

会長から以下の 11 名の入会について諮られ、承認された。

新規会員（2010 年 12 月 1 日より現在まで）

陳激（大月短期大学（非））村田和美（サイバー大学（メンター））董玉琦（京都大学（院））浦山あゆみ（大谷大学）寺西光輝（椛山女学園大学（非））藤本澄江（日本大学（院））原正人（中央大学）上原徳子（宮崎大学）樂大維（早稲田大学（院））張文青（立命館 APU）呂昭明（松山大学）

退会者（2011 年 3 月末付）

板谷俊生 村上嘉英

12. 次年度全国大会開催校は神田外語大学に決定

今年度大会までは、次年度の開催校が決まっていなかったが、その後、神田外語大学の植村麻紀子氏より、来年度の全国大会を開いてもよいという返事を得、メールで理事会の承認も得た。

なお、来年度は、本会成立 10 周年でもあり、高中研との合同開催を含め、植村麻紀子氏、現会長の荒川ならびに理事から山崎直樹氏が加わり計画を立てることになった。今後の予定については会報ならびに HP で順次報告する。

日時：2012 年 6 月 2 日（土）3 日（日） 場所：神田外語大学（千葉県美浜区）

13. その他

次回理事会及び編集委員会は 12 月 17 日（土）に愛知大学東京事務所にて開催予定である。

(3) 事務局からのお知らせ

1. 年会費振込のお願い

同封の振込用紙にて、今年度年会費をお支払いください。滞納のない会員には 2011 年度分の 5000 円があらかじめ記入されたものが同封されております。滞納のある会員には、滞納分と今年度分の明細と合計額が記載されたものが同封されております。早めのお支払、ご協力をお願いします。

なお、2 年以上滞納のある会員には『中国語教育』第 9 号を送付していません。会費の振込が確認できしだい送る予定ですので、早急に会費を振込んで下さいますようお願いいたします。

2.住所不明者について

事務局では学会誌第9号を送付する際に、業者配達で戻ってきた約50件を再度郵送しましたが、それでも40件近くが事務局に戻ってきました。以下の方の現在状況、現住所が不明になっています。該当する方は、早急にメールにて、事務局に住所変更の連絡をください。また、周辺の方で当該会員の動向をご存じの方は、お手数ですが、事務局へメールにてお知らせください。

住所不明者：

大崎雄二 神田千冬 熊谷暁子 胡興智 関悦子 張書涵 法村矩子 橋本南都子
文鐘蓮 宝玉芳恵 劉嘉恵 凌雲鳳 (株)三修社 小園瑞恵 吉田桂子 陸薇 吉田慶子
沼田薫子 比拉勒伊力亞司 張美霞 姚艷玲 王琳 岩田弥生 張宏波 山本範子 神谷まり子
馬俊栄 李瑾 好並晶 苞山武義 (株)語文研究社 任利 趙紅 一木達彦 中村加奈
下地早智子 趙丹寧 王英輝

3.学会名簿作成について

今回、この会報とともに名簿作成のための個人情報確認の用紙を同封しましたので、変更がある場合は変更内容を記入し、また、掲載を希望しない項目がある場合はチェックした上で、返信用封筒にてサラトあてに返信してください。

なお、8月31日までに返信がない場合は、変更がなく、掲載も問題がないとみなしますのでご注意ください。もちろん、変更なしで、掲載も問題ないという場合は返信不要です。

4.中国語教育について情報募集のお知らせ

中国語教育学会では、現在、中国語教育に役立つ知識と技術を学ぶための中国語教育セミナーの開催を検討しております。より多くの中国語教師のみなさんの役に立つ企画にするためには、現在の問題点を確認しなければなりません。そこで、現在中国語教育に従事している会員、またこれから中国語教育に従事することを志す会員の方から、教育現場で直面している問題、教育上のなやみや疑問などの情報をお寄せいただきたく思います。

期限：2011年11月末日 宛先：jacle.seminar@gmail.com

なお、お寄せいただいた内容に関しましては、取り扱いに十分注意し、情報提供者の同意なしに公開いたしません。より多くの会員のみなさまからの情報を期待しております。

中国語教育学会 中国語教育セミナー検討グループ

5.『中国語教育』第10号投稿締め切りについて

(2)の理事会審議事項にもありましたが、本学会誌第10号の投稿の締め切りがこれまでの12月より1カ月早くなります。第10号の締め切りは2011年11月5日(土)事務局必着になります。投稿要領、投稿規程などは、HPにて8月初旬に掲載しますので、ご確認ください。